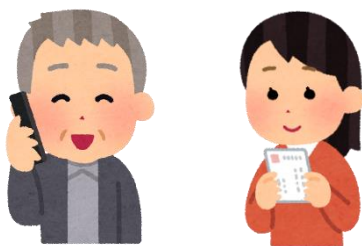


地域活動の参考事例 紹介

自宅での活動

- 電話での安否確認
- 手紙・おたより
- アンケート調査



拠点での活動

- 食材・弁当の配布
- 除菌消臭水(ハセツパー水)の配布
- 規模縮小、実施体制に配慮した継続



訪問での活動

- 手作りマスクなどの生活用品の配布
- 弁当の宅配・見守り
- 声かけ、つながりを活かした情報提供



インターネットでの活動

- オンライン会議
- 顔を合わせる機会づくり
- ホームページでの情報提供



- この活動紹介は、5月中旬までの足立区内の活動状況をまとめたものです。

活動状況の調査は、令和2年4月30日～令和2年5月18日に、足立区内の地域活動団体を対象とした聞き取りにより行いました。

- 3密（密閉、密集、密接）を避け、咳エチケットや手指消毒などの対策を十分行ったうえで、規模を縮小したり、集まらなくてもできる活動があります。
- 「動かない」「話さない」状態が続くと、心身の機能低下につながるおそれがあります。環境や方法に配慮しながら、活動を行いましょう。

子どもたちや高齢者へ、活動の仲間たちへ

コロナに負けるな！！
応援メッセージ募集中



梅田地域学習センターなどで記入用紙を配布しています。皆さんのメッセージをお寄せください。ポスター掲示のご協力者も募集中です。令和2年7月15日まで



QRコードからも記入できます

【応援メッセージのお問合せ】
地域包括支援センター関原 03-3889-1487

「新型コロナウイルス感染症の拡大状況下における 生活上の困難及び地域の取り組みに関する調査」結果報告

調査の概要

1 調査の趣旨

新型コロナ感染症の流行下における生活及び活動上の課題や、地域の取り組みを収集・整理し、今後の活動プログラムを検討するため、団体等に対するヒアリング調査を行った。

2 調査主体

「新型コロナウイルス流行下の地域活動調査チーム」

- ・足立区 NPO 活動支援センター
- ・足立区社会福祉協議会 基幹地域包括支援センター 地域福祉課
- ・同 地域包括支援センター関原

※調査の企画・実施にあたっては、東京大学大学院教育学研究科の牧野篤教授のご助言・ご協力をいただきました。

3 調査対象

- (1) NPO 団体（主な担当機関 足立区 NPO 活動支援センター）
- (2) 町会・自治会、民生・児童委員、ケアマネジャー、介護保険サービス利用者・家族
（主な担当機関 地域包括支援センター関原）

4 調査項目

- (1) 生活や活動のニーズ
- (2) 現在行っている取り組み
- (3) (今後) 自分または地域でできそうなこと

5 期間

ヒアリング調査 令和 2 年 4 月 30 日（木）～令和 2 年 5 月 18 日（月）

調査結果の分析 令和 2 年 5 月 19 日（火）～令和 2 年 5 月 29 日（金）

6 聞き取り団体数（結果） 51 団体

- (1) NPO 活動支援センター 26 団体
- (2) 地域包括支援センター関原 25 団体 ※聞き取り団体には重複がある。

結果の要約

1 生活や活動のニーズ

- ・社会的孤立の進行や、高齢者等の心身機能低下を心配する声のほか、コロナ状況下で可能な活動や、求められている活動を模索している状況がうかがわれた。

【コメント例】

生活ニーズについて

- ・「デイがお休みのため、歩けなくなった。室内での歩行もままならなくなっている」、「オンラインでの取り組みもできる人はいるが、高齢者は大丈夫なのか？」など、社会的孤立への気遣いや、心身の機能低下に関する声があった。

活動方法について

- ・「今できることが何があるか探している」、「人が集まる活動ができないことで何をしたらよいか悩んでいる」など、コロナ状況下での活動方法に関する悩みの声があった。
- ・「再開を望む声が多く、メンバーも動けない状態でウズウズしている」、「手持無沙汰」、「退屈で、退屈で」など、活動ができずに時間を持て余している様子がうかがわれた。

資源ニーズについて

- ・施設貸し出しがストップしたことにより「活動できる場所がない」、「人が集まらない状況なので人手が足りない」など、活動資源の不足に関する悩みがあった。

団体活動の継続について

- ・「集まることができないため役員同士の連絡が取りづらい」、「再開できるようになっても、来なくなってしまったり、『やめます』という人も出てくるんじゃないか」など、活動の継続を不安視する声があった。

2 現在行っている取り組み

- ・活動の場所に注目してみると、①自宅、②訪問、③拠点、④オンラインによるものがあった。
- ・物品配付などの場合は②訪問、③拠点が同時に取り組まれていることも多く、状況に応じて①～④の方法を選択していくことが示唆された。

【コメント例】

- ・ **自宅での活動**では、電話による安否確認、手紙・おたより、アンケート調査などの活動事例があった。
- ・ **訪問による活動**では、手作りマスクなどの生活用品や弁当の宅配・見守り、除菌消臭水（ハセッパー水）の配布、つながりを活かした情報提供などの活動事例があった。
- ・ **拠点での活動**では、食材・食品・弁当の配布、規模の縮小、実施体制に配慮して継続などの活動事例があった。
- ・ **オンラインの活動**では、顔を合わせる定例の集まりや情報提供などの活動事例があった。
- ・ **通常の活動**を行っている団体（介護保険サービス、フードパントリーなど）もあったが、同時にメンバーのストレスやマスクなどの資源不足、ボランティア不足の課題もあげられた。

3 （今後）自分または地域でできそうなこと

- ・ オンラインでのつながりの機会づくりや相談・講座実施の仕組みづくりを挙げた団体が多数あった。
- ・ 規模を縮小したり、屋外での活動再開を予定している団体があった。
- ・ “終息待ち” や “手伝えることがあったら声をかけてほしい” などの声も多かった。「気持ちはあるが、思うように動けていない」と感じている団体が少なくないことがうかがわれた。

【コメント例】

- ・ オンラインでのつながりや相談、講座提供の仕組みづくり
- ・ 規模を縮小、屋外での活動再開
- ・ 情報共有の機会づくり
- ・ 弁当の提供
- ・ 場所提供 ※ただし、活動内容や時期の限定あり
- ・ 食料の無料配布（フードパントリー）や学習資材の配布
- ・ 終息待ち
- ・ 手伝えることがあったら声をかけてほしい
- ・ その他（夏に向けて暑苦しくないマスクづくりなど）